

No. 26	平成 25 年度「地域子育て活動支援事業」実施の内容
団 体 名	盛岡夜回りグループ ー s t e p ー
事 業 名	学習支援及び社会生活支援事業
実 施 期 間	平成 2 5 年 4 月～平成 2 6 年 3 月
事 業 実 績	中学生を対象に、毎月 2 回～ 3 回程度の学習会を実施。 大学生や、社会人の先生が、参加した子どもたちに学習指導を行う。 また、8/15～8/16 夏季合宿の実施、12 月にはクリスマス会、岩手県立大学見学ツアーを実施。
実 施 効 果 自 己 評 価	実施効果 ① 参加者の居場所としての機能 ・学習の場として機能しながらも、家や学校以外の「居場所」の一つとしても機能していた。 ② 中学生の感情、情緒面への影響 ・中学生たちの様々な感情、生活の中での不満を吐き出すことのできる場所となっていた。 ・スタッフはその感情を受容し、包摂することができた。 ③ 社会性の構築 ・他世代間交流ができ、その中でコミュニケーション能力を身に付けることができた。 ・昼食をいっしょに作ることで、生活力の向上のきっかけにつながった。 ・集団行動の中で、自分の役割を見つけて行動することができるようになっていった。 ④ 学習意欲の向上 ・自分から学習に取り組む姿勢がみられ、学習意欲の向上につながった。 ・継続して学習会に参加していた中学生は全員高校合格することができている。 ⑤ 参加者への効果 ・参加する大学生のフィールドワークの機会ともなった。 ・子どもの貧困や教育、DV、社会保障制度等の社会問題について考えることができた。 ・step の活動を参考に卒業論文を書く学生もいた。 ⑥ 中学生の将来像の構築のきっかけづくり ・大学生、大人との関わりの中で、大学生生活、アルバイト、就労などの話をすることがあり、将来について考えるきっかけとなった。 実際に将来の夢について語ってくれる子もいた。 自己評価 良かった点 ・継続することで、中学生に安定して学習場所を提供することができた。 ・中学生と関係性を構築することができたため、中学生が活動を楽しんで参加してくれた。 ・基本的にマンツーマンで指導をすることができ、個別性を重視することができた。 課題 ・スタッフの確保、定着化、枠割り分担が不十分だった点、スタッフの立場、活動の理念が不明瞭だった点が今後の課題である。 また、活動内容における中学生との関係づくりの方法について、再検討をする必要がある。